

女性教職員活躍事例集Ⅱ

～管理職への道のりと伝えたいメッセージ～



前 天塩町立天塩小学校 山田校長

Q お伝えしたいメッセージをお願いします！

私は子育てが一段落したタイミングで、管理職を目指しました。

留萌管内では遅いタイミングでしたけど、自分としては「今が一番適切なタイミング」と思いました。

その人、その人のタイミングで、管理職になれるチャンスがあれば、そのタイミングで考えるのがいいと思います。

Q 管理職を志した理由やきっかけは？

私はずっと教員をするつもりでしたし、自分には自信もなくて、自分が管理職になるとは考えていませんでした。

しかし、年齢を重ねるうちに自分の立場を意識するようになり、「いつまでも同じ立場でやるのではなくて、指導していく立場になるんだな、なっとならなければならぬんだな」と考えるようになりました。

また、30代の頃、留萌管内ではまだ女性管理職が少ない時代に、女性の先輩管理職に「次はあなたたちだよ！あなただよ！」と声をかけてもらって、「管理職をやってみようかな」という気持ちになりました。

Q 管理職として子育てを始める職員に対し気をつけていることは？

子育てを始める職員には、「子どもはいつ病気になるかわからないので、より先の見通しを立てて仕事をしていくこと、準備をしていくこと、急なアクシデントにも慌てないように「こういう時は、誰が、何を、どうする」という分担を、あらかじめ家族間でよく話し合っておくことと、もし近くに親御さんがいたら親に頼る、近所に頼れる人がいたらその人に頼ることも必要だよ」ということを伝えています。

次ページからインタビューの全文を掲載しております！是非御覧ください！

Q 管理職になるために必要だった支援は？

教員時代に自分が管理職になった時の姿を想像すると、子育てが大変だなと思いましたので、一番必要な支援は家族の理解でした。

そして、管理職の理解、先生方の支援など、いろんな人の支援が必要だったと思います。

Q 管理職のやりがいや魅力は？

教頭職はよく「学校の要」と言われます。

教頭は児童・生徒や先生方の状況を毎日観察するので、「子どもたちの実態がこうだから、今、これをやった方がいいのではないですか？」という自分がやりたい提案を、校長にできる楽しみがありました。

校長になってからすごく感じたのは、「教頭によって学校運営や職員室経営が大きく変わること」です。

もちろん校長は大切なポジションですが、教頭の方がすごく大切ではないかと思うことはあります。

Q 管理職になって気づいたことは？

一般教員の時は、がむしゃらに授業を進めること、学級経営をすること、校務分掌をこなすことで精一杯でしたが、管理職になってからは別の視点で知ることがとても多く、「一般の先生方にきちっと伝えることが、いろいろあるんだな」と気づきました。

1・管理職を志した理由やきっかけを、お聞かせください。

私はずっと教員をするつもりでしたし、自分には自信もなくて、自分が管理職になるとは考えていませんでした。

しかし、年齢を重ねるうちに、どんどん若い先生方が入ってきて、自分の立場を意識するようになり「いつまでも同じ立場でやるのではなくて、指導していく立場になるんだな、なっていかなければならないんだな」と考えるようになりました。

また、30代の頃、留萌管内ではまだ女性管理職が少ない時代に、女性の先輩管理職に「次はあなたたちだよ！あなただよ！」と声をかけてもらって、「管理職をやってみようかな」という気持ちになりました。

2・管理職になるために必要だった支援は、どのようなことですか？

教員時代に自分が管理職になった時の姿を想像すると、子育てが大変だなと思いましたので、一番必要な支援は家族の理解でした。

家族の理解、管理職の理解、先生方の支援など、いろいろな人の支援が必要だったと思います。

3・管理職になって気づいたことは、どのようなことですか？

一般教員の時は、がむしゃらに授業を進めること、学級経営をすること、校務分掌をこなすことで精一杯でしたが、管理職になってからは別の視点で知ることがとても多く、「一般の先生方にきちっと伝えることが、いろいろあるんだな」と気づきました。

例えば、法令が時々変わります。道教委からはいろんな通達が発出されます。

それらが意外と知らされずに、毎日進んでいたこともあったのではないかと思います、自分が管理職になった時は「何がどう変わったのか、だからこうしなくてはならないんだ」ということを、きちっと伝えていかなければならないと思いましたし、「それを教育活動にどう生かしていくのか」を伝えるように、心がけてきました。

また若い先生方にも、そのことを教頭の立場から伝え、校長の立場から伝えることで、「管理職はこういう仕事だよ」ということを、きちっと理解できるのではないかと思います。

4・管理職のやりがいや魅力を、お聞かせください。

教頭職はよく「学校の要」と言われます。

教頭は児童・生徒や先生方の状況を毎日観察するので、「子どもたちの実態がこうだから、今、これをやった方がいいのではないですか？」という自分がやりたい提案を、校長にできる楽しみがありました。

校長は楽しいですが、そういう意味では教頭の方が、やり甲斐があるのではないかと思います。特に、校長と教頭の考えが一致した時は、とてもやり甲斐を感じましたね。

校長になってからすごく感じたのは、「教頭によって学校運営や職員室経営が大きく変わる」ことです。

もちろん校長は大切なポジションですが、教頭の方がすごく大切ではないかと思うことがあります。

5・後輩教職員へのメッセージを、お聞かせください。

私は最初、中学校音楽科の教員でした。教員に成り立ての頃は「音楽の楽しさ、素晴らしさを、一人でも多くの子どもたちに伝えたい！」もう、その一心でしたし、努力を重ねてきました。

でも、年齢を重ねて経験を積んでいくうちに「自分はどんな学校にいたいのか？」、ということが「自分はどのような学校を作りたいのか？」というところに、気持ちがシフトしていったと思います。

S

先生方には「自分が校長だったら、どうしてみたい？」
「校長になったつもりで考えてみて」と伝えることもあります。

私が描く教育は、どこの地域でも「地域に根ざす」ことが一番と思っています。

私たち教員はいろんな地域に赴任しますので、それぞれの地域で多くの人に出会うことで考えが変わることもあると思いますが、自分の描く学校像や子ども像に近づくよう考えながら、仕事をしていければいいと思いますね。

6・子育てを始める職員に対して、管理職として、どのようなことに気を付けていますか？

子どもはいつ病気になるかわからないので、より先の見通しを立てて仕事をしていくこと、準備をしていくこと、急なアクシデントにも慌てないように「こういう時は、誰が、何を、どうする」という分担を、あらかじめ家族間でよく話し合っておくことが必要だと思います。

また、夫婦だけではなくて、もし近くに親御さんがいたら親に頼る、近所に頼れる人がいたらその人に頼ることも必要と思います。

子育てを始める職員には、そのようなことを伝えていきます。

7・ご自身が子育てをしている時に、管理職の、どのようなサポートが支えになりましたか？

まずは、私の状況をいつも理解してくれたことに尽きます。

また、子どもが病気になったり、長期の入院になった時は、先生方への対応について配慮してくださったことが、とてもありがたかったですね。

8・インタビューの最後となりますが、お伝えしたいメッセージはありますか？

私は子育てが一段落したタイミングで、管理職を目指しました。

留萌管内では遅いタイミングでしたけど、自分としては「今が一番適切なタイミング」と思いました。

S

その人、その人のタイミングで、管理職になれるチャンスがあれば、そのタイミングで考えるのがいいと思います。

[インタビュー実施月：令和4年3月]

インタビューにご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。